



県警機動隊員に誘導され海岸に避難する児童たち



児童は県警のボートで宇和島海保の巡視船「たかつき」に搬送されました。

あんないっしょいっしょいっしょいっしょ

写真 4  
7 交通ルールを守ります

城辺保育所の園児が城辺駐在所連絡協議会に協力してもらい完成させた、交通安全を祈願した七夕飾りを愛南警察署と愛南町役場本庁に贈りました。

役場本庁前で行われた贈呈式では、城辺保育所年長組の「きりん組」の園児 20 名が「しんごうをまもります」、「ちゅうしゃじょうであそばない」などと交通安全への思いを込めた七夕飾りを岡田敏弘副町長に手渡しました。

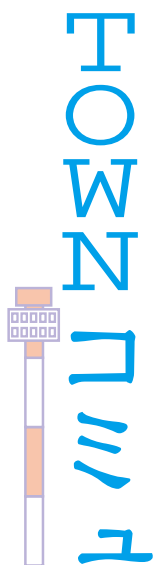


写真 5 写真 6  
7/ 14 陸海連携で防災訓練

福浦小学校で、南海トラフ巨大地震での大津波警報発令を想定した合同防災訓練が実施されました。訓練は、第二次避難場所に逃げて 2 日が経過した同校児童や地区住民を、愛媛県警と宇和島海上保安部が陸海で連携して海上から救出するという想定で行われ、同校の木原要子校長が避難する子どもたちに大きな声で指示を出すなど、近い将来発生するとされる巨大地震に備えて一人一人が真剣に取り組みました。

木原校長は「今日の訓練を、自分たちの命を守る行動にしっかりとつなげていきましょう」と参加した児童たちに呼びかけ、同校 6 年生の川脇あぐりさんは「避難したけど取り残されることは実際にあるかもしれないので、しっかり行動したい」と話しました。

本日!海日和!! vol.45 「名前は怖い・・・」



夏になると怪談をよく耳にするようになる。怖い話で夏を涼しく乗り切ろうとする江戸時代からの知恵だそうだ。

今回紹介するのは怪談に似合わない、かわいい魚だが、ヤシャハゼという恐ろしい名前が付いている。名前の由来は目が夜叉に似ているからだそうだ。目が釣り上がっているようにも、口が耳まで(魚に耳はないが・・・)裂けているようにも見えなくもないが、名前を付けた学者さんは、生きている姿を見たことがないに違いない。体長は 5cm と小さく、長い背びれをピコピコさせながら水中をホバリングしている姿はとても愛らしい。テッポウエビと共生することでも知られている。穴掘りの得意なテッポウエビが砂地に巣穴を作り、目のいいヤシャハゼが見張りをして、互いに助け合って生きている。

愛南町でも珍しく、私も一度しか出会ったことがない。怪談の主人公が実在しないのは言うまでもないが、ヤシャハゼには幻の魚になってほしくないものである。

(撮影地: 鹿島) 愛南サンゴを守る会 西尾知照



写真 1  
6/ 17 癒しの果実でお接待を

長崎保育所年長組の園児6名が、南宇和高校農業科の3年生12名に協力してもらいながら、御荘菊川の国道56号の遍路道沿いに「接待木」として愛南ゴールドの苗木10本を植えました。

歩き遍路さんが水分・栄養補給をし、疲れを癒すために自由に食べてもらえるようにと、南宇和旅館ホテル組合(山下常臣組合長)が企画。山下組合長は「園児のおかげでおいしい実がなると思う。そのときが楽しみ」と、笑顔で話しました。

写真 2  
6/ 30 アケボノツツジを未来に残そう

近年、アケボノツツジの花芽の減少が顕著な篠山で、後継樹を育て美しい景観を未来に残そうと、篠山小学校の5、6年生9名が篠山中腹にアケボノツツジの苗木を植えました。

植樹は日本造園建設業協会四国総支部が企画し、高知市の造園会社が協力して行われました。100本の苗木が、環境の変化に順応させるためにまず中腹に植えられ、順調に生育すれば山頂に移植される計画です。

花が咲くという30～50年後を思い、子どもたちは真剣に作業に取り組みました。

写真 3  
7/ 12 優しい竹灯籠の灯りが町並み照らす

小西酒造の酒蔵を中心に蓮乗寺川周辺で、街道灯籠祭り愛南2014「酒蔵の道をゆく」が開催されました。

酒蔵内では、「酒蔵カフェ」でじゃこ飯や飲み物の販売があったほか、地元グループによるフラダンスショーなどが行われました。また、17時30分頃には約400個の竹灯籠と松明に火が灯り、多くの家族連れが幻想的な灯籠の灯りと夏の風情を楽しみました。